

## 令和7年度基金運用の振り返り

### 1 令和7年度当初の金利見通しと基金運用の方針

令和7年度当初は、米国の関税措置を主な要因として、世界経済情勢の先行きが不透明となりました。これに伴って、国内金融市場の変動リスクが高まり、金利動向についても見通しが立てにくい状況となっていました。

このような状況を踏まえ、区の基金運用にあたっては、安全性と流動性を最優先とし、短期的な市場動向に過度に左右されることなく、基金本来の目的に沿った中長期的な視点で、安定的な運用を行うこととしました。

債券の運用においては、昨年度と同様、満期保有を原則とし、償還期限の異なる債券を分散保有することで、年ごとの金利変動リスクの平準化と流動性を確保する、期間5年のラダー型ポートフォリオを中心とした運用を行うこととしました。加えて、公共債を中心に6年から10年までの年限帯の運用を組み合わせたラダーを構築し、収益性の向上にも努めることとしました。

さらに、債券の毎月の購入額を一定とし、特定の金利水準への集中を避け、取得利回りの平準化に取り組むこととしました。

### 2 令和7年度の金利推移と債券運用の実績

令和7年度の金利環境は、年度当初から大きな変動を伴う展開となりました。日本銀行は、令和7年1月の金融政策決定会合において政策金利を0.50%程度へ引き上げ、同年12月には0.75%程度へ更なる引き上げを実施しました。これにより、金融政策は段階的に正常化が進む局面を迎えました。

こうした金融政策の動向を背景として、国債金利も年度を通じて大きく変動しました。5年物国債金利を見ると、令和7年度当初（4月頃）は概ね1.1%前後で推移していましたが、市場が不安定化する中で一時的に低下する局面が見られました。その後、夏から秋にかけては下げ止まり、秋頃には1.3~1.4%程度まで上昇しました。

さらに、冬以降は政策金利の引き上げ観測や、中東情勢の緊迫化に伴うインフレ懸念を受けて金利上昇が進み、年度末にかけては1.6%台から1.7%台へと上昇し、令和8年3月には一時1.8%台を記録する場面も見られました。

このように、年度を通じて金利は「当初低下 → 秋に上昇 → 冬から年度末にかけてさらに上昇」という推移をたどりました。区の債券運用においては、これらの短期的な金利変動を予測して対応するのではなく、運用方針に基づき、取得利回りを平準化させるため、毎月定額購入による時間分散型の運用を継続しました。

その結果、年度初めからその後の金利上昇局面にかけて、幅広い局面で債券を取得することができ、一定の利回りを確保することができました。このことによって、急激な金利変動局面においてもリスクを回避しつつ、安定的な基金運用を維持することができました。

### 3 預金運用の実績

預金による運用については、政策金利の引き上げを背景として、年度途中から金利水準が段階的に上昇しました。これにより、従来と比べて預金運用においても一定の利回り改善が図られ、流動性を確保しつつ安定的な利息収入を得ることが可能となりました。

区では、短期的な資金需要への対応や安全性を重視した運用として、預金を引き続き重要な運用手段の一つと位置付けています。定期預金を活用しながら、債券運用とのバランスを考慮した資金配分を行うことで、基金全体としてのリスク分散と安定運用を確保しました。

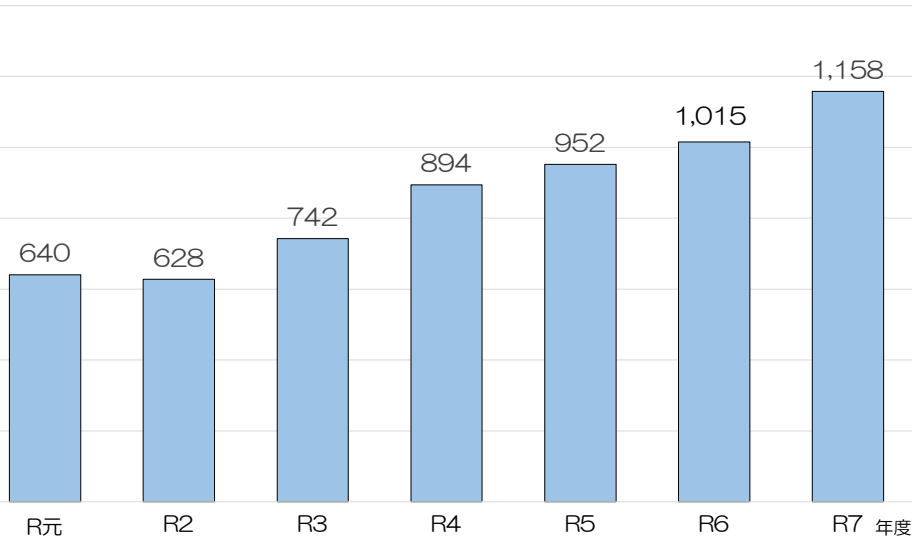
### 4 令和8年度の展望

令和8年度は、世界経済、日銀の金融政策、地政学的リスクなど、引き続き不確定要素が多く、金利動向についても、このまま上昇を続けるとは限らず、予断を許さない状況が続くものと見込まれます。

このため、金融市場の動向を注視するとともに、短期的な金利変動に一喜一憂することなく、安全性と流動性を最優先としつつ、安定的な収益確保を図るべく、適切な基金運用に努めていくこととします。

# 【公金の管理】 令和7年度 基金運用の概要

① 基金年度末残高 (億円)

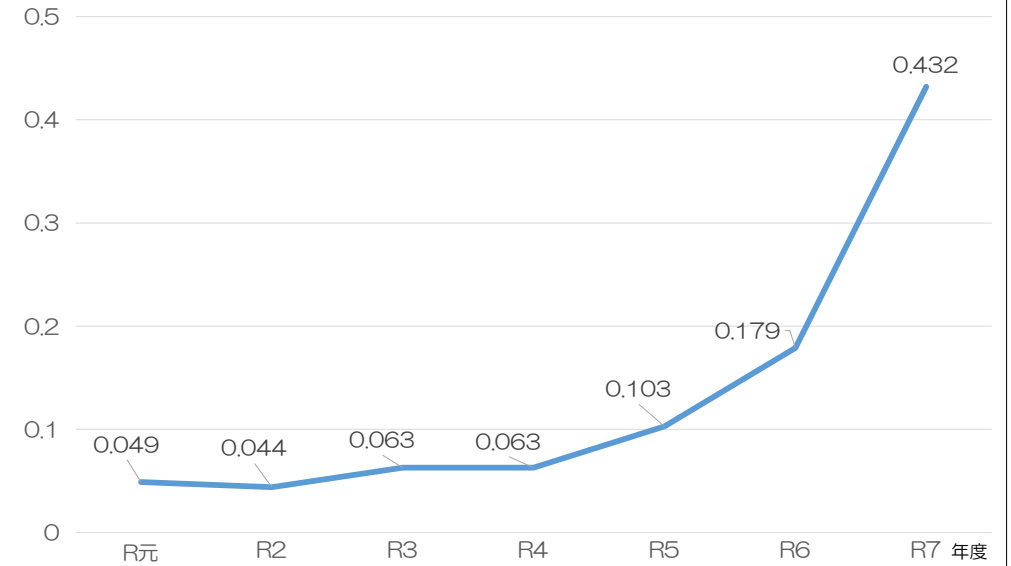


② 各基金残高 (R8年3月末)

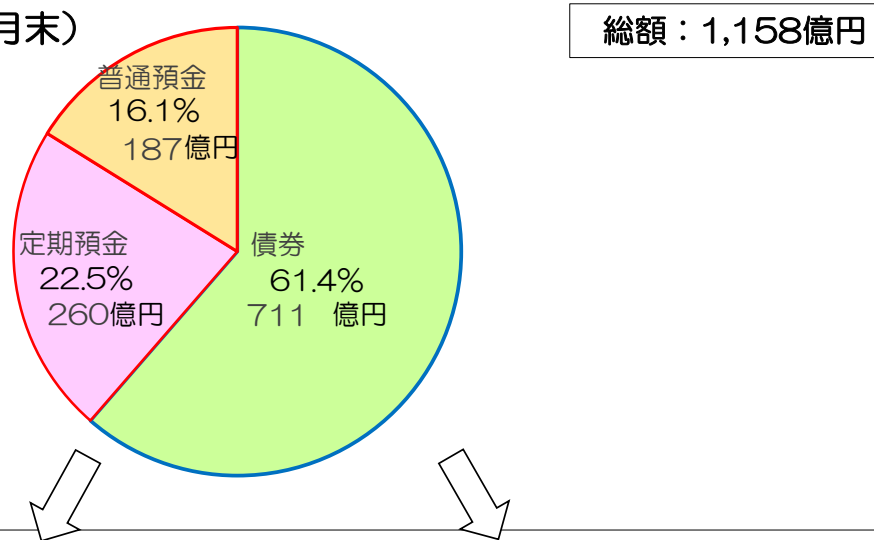
施設整備基金	361.7億円
財政調整基金	609.9億円
減債基金	33.7億円
社会福祉基金	9.3億円
区営住宅整備基金	24.7億円
NPO支援基金	0.4億円
みどりの基金	0.6億円
介護保険給付費準備基金	54.5億円
次世代育成基金	3.1億円
森林環境譲与税基金	0.6億円
杉並区役所庁舎整備基金	60.2億円
児童養護施設退所者等応援基金	0.1億円
<b>計 12基金</b>	<b>1,158.8億円</b>

※各基金の詳細については、杉並区公式ホームページより、財政ダッシュボード > 基金・公債費等 の説明欄をご覧ください。

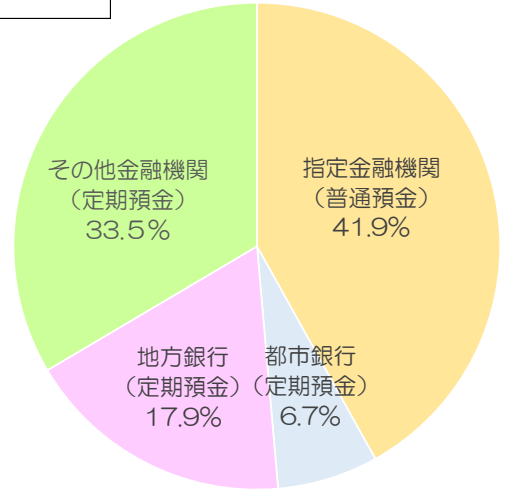
④ 運用収益率 (B/A)



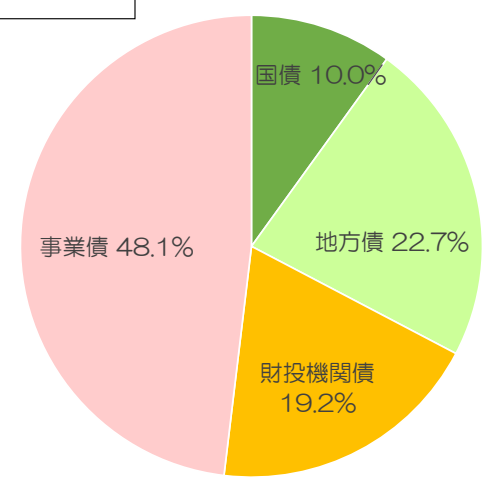
③ 運用資産構成 (R8年3月末)



預金の内訳



債券の内訳



※うち24.6%はESG債となっています。

	R元	R2	R3	R4	R5	R6	R7
基金平均残高 (億円) A	577	596	552	779	907	954	1,018
運用収益 (万円) B	2,824	2,597	3,473	4,922	9,347	17,075	44,045

⑤ 債券の運用利回り

	R元	R2	R3	R4	R5	R6	R7
債券購入額 (億円)	93	41	92	154	123	155	180
運用利回り (%) ※				0.294	0.454	0.963	1.723

※当該年度に購入した債券の平均利回りを示しています。債券の「利回り」とは、投資金額に対して、「利息による収益」と「償還差損益 (投資した金額と額面金額との差額)」との合計が、どのくらいの割合になるかを示したものです。

⑥ 債券満期ポートフォリオ (2026年3月31日時点)

